

# 詩「春に」

春に

谷川 俊太郎

- ① この気もちはなんだろう
- ② 目に見えないエネルギーの流れが
- ③ 大地からあしのうらを伝わって
- ④ ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ
- ⑤ 声にならないさけびとなつてこみあげる
- ⑥ この気もちはなんだろう
- ⑦ 枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく
- ⑧ よろこびだ しかしかなしみでもある
- ⑨ いらだちだ しかもやすらぎがある
- ⑩ あこがれだ そしていかりがかくれている
- ⑪ 心のダムにせきとめられ
- ⑫ よどみ渦まきせめぎあい
- ⑬ いまあふれようとす
- ⑭ この気もちはなんだろう
- ⑮ あの空のあの青に手をひたしたい
- ⑯ まだ会ったことのないすべての人と
- ⑰ 会ってみたい話してみたい
- ⑱ あしたとあさつてが一度にくるといい
- ⑲ ぼくはもどかしい
- ⑳ 地平線のかなたへと歩きつづけたい
- ㉑ そのくせこの草の上でじつとしていたい
- ㉒ 大声でだれかを呼びたい
- ㉓ そのくせひとりで黙っていたい
- ㉔ この気もちはなんだろう

## ○詩の形式

☆詩の形式は、次の二点に注意して見分けます。

話し言葉である…**口語**(やわらかい・優しい)  
書き言葉である…**文語**(かたい・まじめ)

七五調である…**定型詩**(リズムがある)  
七五調でない…**自由詩**(形が決まっていない)

### 問題

『春に』の形式を選びなさい。

- ア 口語定型詩
- イ 口語自由詩
- ウ 文語定型詩
- エ 文語自由詩

( )

## ○詩のまとまり

☆詩には、ほかの文章と異なり、段落がありません。その代わりに、詩を意味や場面で分けるまとまりとして**連**というものがあります。

### 問題

『春に』は連がなく、ひとつのまとまりの詩です。ですが、意味のまとまりを考えると3つのまとまりに分けられます。

3つのまとまりは、それぞれ行番号でいうと何番から何番までですか。

- 第一のまとまり ( ) ① ( )
- 第二のまとまり ( ) ( )
- 第三のまとまり ( ) ( ) ㉔ ( )

### 問題

それぞれのまとまりは、最後の行が決まったある言葉で区切られています。その言葉を本文から抜き出さなさい。

- ( ) ( )

## ○対句

☆同じ文の形を使って、それぞれのちがいや共通点を目立たせる**技法**を**対句法**といいます。

### 問題

対句が使われている箇所を、第二のまとまりの中からすべて選び、行番号で答えなさい。

- ( ) ( )

### 問題2

第三のまとまりの⑳㉑と対句になっている箇所がある。行番号で答えなさい。

- ( ) ( )

## ○反復

☆全く同じ文を何度も繰り返すことで、その箇所を強調させる技法を**反復法**といいます。

### 問題

本文中で反復法が使われている文章を書き抜きなさい。

- ( ) ( )

反復されているところは筆者の  
気持ちが強く表れているね！



## ○比喩

☆たとえ言葉を使って、様子や状態を読み手に想像させる技法を比喩（ひゆ）といます。

☆比喩には、「まるで○○のようだ」という言い方をする直喩と、「○○は□□だ」という言い方をする隠喩とがあります。

☆また、擬人法という比喩があります。擬人法は、人間以外を人間にたとえた比喩です。「鳥が歌う」や「心が痛む」などは擬人法です。

### 問題

本文中で比喩が使われている箇所をすべて行番号で答えなさい。

( ) ( )

### 問題2

次のそれぞれの文のうち、直喩が使われているものはA、隠喩が使われているものはB、擬人法が使われているものはCを書きなさい。

- ①人生は馬拉ソンだ。( )
- ②布団がまるでトランポリンのようだ。( )
- ③今日は調子がいいからペンが走る。( )
- ④桜の花が舞いおどる。( )
- ⑤桜の花がダンサーのようだ。( )
- ⑥桜並木は演劇のステージだ。( )

### 問題3

次のものに直喩を使い、比喩の文を作りなさい。

- ①お母さん ( )
- ②学校 ( )

### 問題4

次のものに擬人法を使い、比喩の文を作りなさい。

- ①空 ( )
- ②風 ( )

## まとめ

☆『春に』の詩は形式上、( ) 詩と呼ばれる。

☆この詩の中で筆者の思いが一番表れている箇所は、何度も反復されている( ) という言葉である。

☆気もちについて述べられているこの詩では、第二のまとまりで対句を用い、

( ) と ( ) 、  
( ) と ( ) など、

それぞれ反対の気もちが自分の中でせめぎあう様子が表されている。

☆「心のダム」というたとえ言葉は、言い切りの形で使われる比喩であり、( ) と呼ばれる。

ただ「せきとめる」だけではなく、「ダム」という言葉にたとえることで、気もちがとてもし大きなものであることを読み手に想像させている。

## 表現しよう

☆『春に』には「この気もちはなんだろう」というフレーズが何度も反復されている。ここでいう「気もち」とはどのような気もちだろうか。本文の内容を読み取り、どのような気もちであるか、あなたの考えを書きなさい。